

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 富山県南砺市

事業名称 南砺市での小児科等医療連携における遠隔コンサルテーション・モデル事業

1. 事業実施概要

南砺地域の医療機関に対し、専門医が遠隔医療コンサルテーションシステムによって、診療所の医師を支援しながら診察を行うと共に、遠隔カンファレンスシステムを用いて、定常的な情報交換を行う。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
コンサルテーションを受ける医師の満足度	満足率 55%以上	68%	○	アンケート調査
コンサルテーションを受ける医師の診療に対する患者・家族満足度	満足率 55%以上	70%	○	アンケート調査
対象診療科	小児科 他1診療科	小児科、総合診療部	○	実際の参加診療科を測定
コンサルテーションを受ける医療機関	2診療所	3診療所	○	実際の参加数を測定

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

＜委託業務説明書＞

1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

- 遠隔コンサルテーションを成功させるためには、相互の医師の信頼関係が基本である。そのためには、定常的な（当プロジェクトでは、毎週月曜日 17:00-17:30）遠隔会議が極めて有効であることが確認された。しかしながら、この実現のためには、医師（特に専門医）の負担が大きく、それを組織的に支援する仕組みの構築が望まれる。
- 定常的な大学病院との多施設遠隔カンファレンスは、参加する医療機関の意思から評価は高かった。遠隔カンファレンスの機器の操作性や機能も、従前に比べて向上しているが、実際に開催するときは担当技術員のサポートが必要であり、より操作の簡便性が求められる。

2 自律的・継続的運営の見込み

- 南砺市では、遠隔コンサルテーション、遠隔カンファレンスの機器の運用の経費について22年度に予算を計上している。
- 遠隔コンサルテーションについては、南砺市民病院の専門医も了承しており、継続的な運用が予定されている。
- 遠隔カンファレンスについては、富山大学総合診療部の手承が得られており、継続的な運用が予定されている。

3 今後の展開方針

1. 南砺市民病院と3診療所の、小児科カンファレンスの定常的運用
2. 富山大学総合診療部との遠隔カンファレンス
3. 3診療所における糖尿病連携パス
4. 砺波総合病院との電子カルテ連携

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	遠隔医療推進協議会	遠隔医療推進事業を円滑に運営していくことを目的に、全体スケジュールの管理、各医療機関の連携、効率的な ICT 利活用、事業評価等の全体的な検討を行う。
2	地域医療連携部会	参画する医療機関・関係団体と、遠隔医療に対する地域医療連携のあり方、医療連携を行うための方法、医療連携時の問題等について検討を行う。
3	評価専門部会	遠隔医療推進事業の評価の方法の検討、実施結果の評価を行う。

事業実施進行表

[illegible]

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト
なし

以 上

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：南砺市

代表団体名：

事業名称：南砺市での小児科等医療連携における遠隔コンサルテーション・モデル事業

1 概要

平成20年度に実施した、小児診療を中心とした遠隔コンサルテーションシステム事業を踏まえ、その定着化、脳卒中/糖尿病への対象の拡張、南砺市近隣を含む他医療機関との連携試行を実施する。

- ・南砺市民病院の小児科専門医による3診療所への遠隔コンサルテーションの実施と定常化
- ・富山大学附属病院と南砺市立医療機関との遠隔カンファレンスの定例化
- ・他医療機関(南砺市隣接も含む)との連携試行
- ・カルテの共有に伴う、カルテやサマリーの記載内容の体系的整理
- ・脳卒中/糖尿病の専門医による診療所への遠隔コンサルテーション/地域連携システムの構築

2 運用結果

遠隔コンサルテーションシステムを利用した医師に対するアンケート調査結果では、満足度が68%であり、実際の診療に寄与していると言える。また、対象地域の患者家族に対するアンケート調査結果では、システムの満足度は70%であり、本来医師に対する支援システムであるが患者に対しても好影響を与えていることが分かる。

3診療所と南砺市民病院との遠隔コンサルテーションは、定期通信が年間72回、その他の臨時が8回と定常的に利用されている。富山大学附属病院総合診療部と南砺市の各医療施設が同時参加する多施設を連携した遠隔カンファレンスも定例的に実施され有用性が確認された。

地域連携パスは、香川労災病院の脳卒中連携クリティカルパス、糖尿病はカルナ・プロジェクト(九州)を用い、3診療所から抽出した代表的な患者について運用を開始した。

3 課題・改修の必要性

遠隔コンサルテーションシステムの効果的な運用には、キーとなる南砺市民病院・富山大学総合診療部と3診療所・近隣地区の他医療機関との、コンサルテーションやカンファレンスを行う相互に無理のない時刻帯の調整が重要である。また現場の医師より、皮膚科領域等への対象拡大の必要性も指摘されている。

4 その他

構築された遠隔コンサルテーションシステムの継続的な実施のために、3診療所における糖尿病連携パスの拡張、砺波総合病院との電子カルテ連携等が計画されている。